



9月25日(木)、今年度の第124期教育研究員は、成果報告会を終えました。以下、研究員の研究概要を紹介します。

《幼児教育》対話を通して、遊びを広げていく園児をめざして  
～発見やイメージを言葉で表現し友達と共有していくための



手立ての工夫～

那覇市立大道みらいこども園保育教諭 浦崎 祥代

学級の実態として、環境に主体的に関わり、体験したことや考えたことなどを、振り返りの場で積極的に伝えようとする姿が多く見られる。しかし、友達の考えを聞き、自分の遊びに取り込んだり、友達と互いに刺激し合ったりしながら、一緒に遊びを広げていく園児の姿は少ない。

そこで、園児が、発見やイメージを言葉で表現し、保育教諭や友達と共有しながら一緒に遊びを広げていけるようにするため、保育の手立てを工夫した。

実践では、サークルタイムでの対話を中心に、園児同士がイメージを共有し、遊びを広げていくことができるように、保育教諭による5つの意図的な手立てを取り入れて保育を展開した。またその際、「SOAP」の記述法を用いた保育記録を継続的にとり、個々の育ちの姿に寄り添った援助を行った。

その結果、園児は安心して自分の思いや考えを、言葉やその園児なりの方法で表現できるようになった。さらに、友達との関わりが広がり、発見やイメージを言葉で表現し合い、友達と共有しながら、一緒に遊びを広げていく姿につながったと考える。

《小学校 社会科》社会的事象を多角的に考える

児童の育成



～「問い」を活かし、考えを選択・判断する対話的な学びの工夫を通して～

那覇市立高良小学校教諭 酒井 守礼

児童の実態として、自ら進んで課題解決に取り組んでいなかったり、課題解決の場で自分の考えだけにとどまっていたりする姿が見られた。授業の中で、課題意識をもち、解決に向けて積極的に考えることに課題があることが分かった。

そこで本研究では、課題改善に向けて、児童が社会的事象に興味・関心をもち、他者との対話の中で自己と他者の考えを比較しながら考えを選択・判断することで、課題解決を図る授業の工夫について研究を行った。

その結果、「問い」を活かした学習問題を設定することで、興味・関心をもち、社会的事象に気付く児童が増えた。また、対話を通して、他者の考えをもとに複数の立場や取組に気付く、思考を広げたり深めたりし、社会的事象を多角的に考える姿につながった。課題解決に向けて他者の意見を取り入れ、多角的に思考する姿が見られた。

これらのことから、「問い」を活かし、考えを選択・判断する対話的な学びの工夫を通して、社会的事象を多角的に考える児童の育成につながったと考える。

《小学校 ICT教育》考えを整理し根拠をもって

表現する児童育成



～ICTを活用した思考ツールと協働的な学びを通して～

那覇市立松川小学校教諭 大城 美香

児童の実態として、情報を整理し、自分の考えが伝わるように表現する力に課題があることが分かった。この課題を踏まえて、学習のゴールを「情報を正しく伝えられるキャスターになろう」と設定し、「情報を正しく伝えるためにはどうしたらよいか」という話し合いを行った。その結果、児童はメモを取るものの重要性や課題に気付く、学習全体のめあてを「メモの向上」とし、最終的な活動を「先生の夢中を聞いて伝える」ことに設定した。課題の解決に向けて、まず課題を明確に設定し、思考ツールとしてYチャート(情報を三つの視点で整理)、Xチャート(情報を四つの視点で整理)、クラゲチャート(主張とそれを支える情報を分類・関連付ける図式)をメモとして活用した。また、PMIチャート(事柄をプラス・マイナス・興味深い点に分類)を「アイディアパトカード」に組み込み、話し合いや各時間の振り返りに活用することで、情報の整理・分析活動を位置付けた。さらに、ICTを活用してメモを共有・可視化し、協働的な学びとしてグループでの意見交換を取り入れ、キャスター活動につなげた。授業では国語科単元「聞き取りメモの工夫」を設定し、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」「振り返り・改善」という学習過程を展した。その結果、ICTを活用した思考ツールと協働的な学びを通して、児童は情報を収集・整理・分析し、他者の意見と比較しながら自分の考えを再構成し、根拠をもって表現する姿が多く見られた。これにより考えを整理し、理由や事実などに基づいて表現する児童の育成につながったと考える。

《中学校 社会科》社会的事象を多面的・多角的

に捉え思考力・判断力・表現力を高める生徒の育成



～「問い」に対する自らの考えを再構成する学習活動を通して～

那覇市立鏡原中学校教諭 新垣 百代

生徒の実態として、「問い」に対して自分の意見を述べるだけで終わることが多く、自分の考えを深く表現することに課題が見られた。また、単元の振り返りで自らの考えを再構成する場面では、多面的・多角的な視点による記述が少なく、表現力が十分でないことが伺える。

そこで本研究では、授業における学習課題に迫る「問い」に対して、資料を活用し、思考・判断したことを対話的な学習活動を通して表現する授業を行った。そして、単元の導入で「問い」に対する予想を立て、思考の変容を記録した振り返りシートを活用し、まとめでは予想に対して再構成する学習活動を行った。その結果、生徒は、「問い」を解決する場面で、根拠となる資料の活用と対話的な学習活動を通して、複数の視点を獲得し社会的事象を多面的・多角的に捉えることができた。また、単元の振り返りの場において、思考の変容を記録した振り返りシートを活用し、再構成する学習活動を行うことで、生徒は思考力・判断力・表現力を深めることができた。

以上のことから、「問い」に対する自らの考えを再構成する学習活動を通して、生徒が社会的事象を多面的・多角的に捉え、思考力・判断力・表現力を高めることができたと考える。

## 令和7年度 第124期教育研究員 成果報告会・修了式



大道みらいこども園  
浦崎 祥代 研究員



松川小学校  
大城 美香 研究員



高良小学校  
酒井 守礼 研究員



鏡原中学校  
新垣 百代 研究員



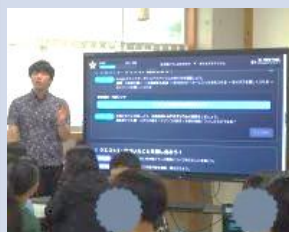
## 令和7年度 前期研究員研究成果報告書

今年度は教育研究員4名、  
合計4名の研究員が修了いたしました。  
各研究員の研究成果報告書を右のQR  
コードからご覧ください。



## 情報関連

○那覇市 ICT 情報教育推進部会（研究授業）8月29日  
天久小学校 教諭 中 龍馬  
理科（6年生）



単元：生き物どうしの関わり  
ねらい  
回答ボードによる発信と、反応  
を通した、SNS 等との付き合い  
方について学ぶ。

○第3回情報教育研修会（オンライン研修）9月11日  
講師：HILLOCK 初等中等部 学院長 養手章吾  
講話：「個別最適・協働的な学び  
への ICT 活用」

受講者の感想

「これからどのような視点で教師が  
働きかけ、子どもたちが自分で動き  
出すことができるかを学ぶことがで  
きました。」「教師の仕事が子どもたちに教えるというだけ  
でなく、子どもたちが自分で学べるようにする」



## 令和7年度 10月 教育研究所事業

- 2日（木）研究員入所式
- 6日（月）市指導主事研修会②
- 8日（金）研究員テーマ検討会
- 21日（月）研究員項立て検討会
- 29日（水）ICT 教育推進部会
- 30日（木）初任研⑪（代表授業 道徳）
- 31日（金）情報教育研修④

## ◆◆◆新着図書（9月）のお知らせ◆◆◆

- 『言葉の力 ペップトーク』 乾倫子
- 『子どもの「間違い」の生かし方』 岩崎直哉
- 『私たちの「インクルーシブ学級」を語り合おう』 阿部利彦
- 『中学生が多文化共生について本気で考えてみた』 山崎寛己
- 『学校とジェンダー』 山根真理
- 『小学1年担任のための図工指導』 雁木君江
- 『子どもの考えをつなぐ算数の問い返し発問』 中村光晴
- 『「判断する力」を育む国語科の授業づくり』 国語教育実践理論研究会
- 『小学生の究極の自学ノート図鑑』 森川正樹
- 『ノートづくりが子供主体の国語科授業を実現する！』 原田義則

★こちらの QR コードから研究所の新着案内を  
閲覧できます。



## 令和8年度教育研究員の募集について

- ・募集人員：7名（前期4名、後期3名）採用予定
- ・研修期間：前期 令和8年4月1日～令和8年9月30日  
後期 令和8年10月1日～令和9年3月31日
- ・応募期間：令和7年9月29日～令和7年11月28日
- ・研修内容：(1)各自のテーマについて調査・研究を行う。  
(2)検証保育・検証授業を行う。  
(3)教育研究所計画の研修（講座）を受講する。
- ・研修（例）：所内講座  
研究の心構え、テーマ・仮説との整合性、  
計画の立て方、コミュニケーション講座、  
道徳教育、特別活動  
タブレット基礎・応用、情報モラル、  
効果的なプレゼン  
所外講座  
教育相談課の取組、那覇市議会傍聴、  
教育関連施設見学